

## 目 次

### 1. 研究者名簿

### 2. 分担研究報告

- |       |  |
|-------|--|
| 研究課題A | 学童・学生・一般成人を対象とした自動体外式除細動器<br>(AED) 啓発アニメーションの作製と教育効果の検討<br>研究担当者 長谷 敦子 |
| 研究課題B | 学校における簡易型蘇生人形を用いた一次救命処置教育の効果<br>研究担当者 田中 秀治                            |
| 研究課題C | DVD 教材と個人専用人形を用いた市民に対する心肺蘇生<br>およびAED 講習の有効性の検証<br>研究担当者 坂本 哲也         |
| 研究課題D | 小児 AED の効果的な普及法に関わる研究<br>研究担当者 清水 直樹                                   |
| 研究課題E | 医系大学学生への AED を含む救急蘇生教育のあり方と<br>普及法についての研究<br>研究担当者 丸川 征四郎              |
| 研究課題F | 公共施設における AED の効果的な設置・表示のあり方<br>に関わる研究<br>研究担当者 畑中 哲生                   |
| 研究課題G | 市民の AED 使用事例に関わる情報の活用と事後検証の<br>あり方に関する研究<br>研究担当者 浅利 靖                 |

## 研究者名簿

研究分担者	丸川征四郎	兵庫医科大学 救急・災害医学
研究協力者		
研究課題A		
研究担当者	長谷 敦子	長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部
	山下 和範	長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部
	坂本 哲也	帝京大学医学部附属病院救命救急センター
	畑中 哲生	救急救命九州研修所
	清水 直樹	国立成育医療センター手術集中治療部
	丸川 征四郎	兵庫医科大学救急災害医学
研究課題B		
研究担当者	田中 秀治	国士舘大学院救急救命システム
	高橋 宏幸	国士舘大学院救急救命システム研究科
	前往 智也	国士舘大学院救急救命システム研究科
	中尾 亜美	国士舘大学スポーツ医科学科
	毛呂 花子	国士舘大学スポーツ医科学科
	鈴木 靖奈	国士舘大学院救急救命システム研究科
	津波古 憲	国士舘大学院救急救命システム研究科
	鈴木 健介	国士舘大学院救急救命システム研究科
	細川 晃夫	国士舘大学院救急救命システム研究科
	米倉 隆	国士舘大学院救急救命システム研究科
	山内 一	国士舘大学院ウェルネスリサーチセンター
	桜井 勝	成蹊大学健康管理センター
	小峯 力	流通経済大学
研究課題C		
研究担当者	坂本 哲也	帝京大学医学部救命救急センター
	金子 一郎	帝京大学医学部救命救急センター
	竹内 保男	帝京大学医学部救命救急センター
	丸川 征四郎	兵庫医科大学救急災害医学

#### 研究課題D

研究担当者	清水 直樹	国立成育医療センター手術集中治療部
	Zeynalov BF	国立成育医療センター手術集中治療部
	帯包 エリカ	国立成育医療センター手術集中治療部
	黒澤 茶茶	国立成育医療センター手術集中治療部
	新田 雅彦	大阪医科大学小児科・救急部
	太田 邦雄	金沢大学医学部小児科
	井上 信明	ロマリンダ大学医学部小児救急部
	長谷 敦子	長崎大学医学部歯学部附属病院救急部
	谷川 攻一	広島大学医学部救急医学
	長尾 健	日本大学医学部救急医学
	坂本 哲也	帝京大学医学部救命救急センター
	丸川 征四郎	兵庫医科大学救急災害医学

#### 研究課題E

研究担当者	丸川 征四郎	兵庫医科大学 救急災害医学
	坂本 哲也	帝京大学医学部 救命救急センター
	長谷 敦子	長崎大学医学部 救急部
	成瀬 均	兵庫医科大学 医学教育センター

#### 研究課題F

研究担当者	畑中 哲生	救急救命九州研修所
	金子 洋	名古屋市消防局
	長瀬 亜岐	新潟県立看護大学地域生活看護学領域
	野口 普子	武蔵野大学心理臨床センター
	丸川 征四郎	兵庫医科大学救急災害医学
	長谷 敦子	長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部
	清水 直樹	国立成育医療センター手術集中治療部
	坂本 哲也	帝京大学医学部附属病院救命救急センター

#### 研究課題G

研究担当者	浅利 靖	弘前大学大学院医学研究科救急・災害医学講座
	丸川 征四郎	兵庫医科大学救急災害医学
	小菅 宇之	横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター
	畑中 哲生	救急救命九州研修所
	坂本 哲也	帝京大学医学部附属病院救命救急センター
	長谷 敦子	長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部
	輿水 健治	埼玉医科大学総合医療センター救急科
	今 明秀	八戸市立市民病院救命救急センター
	清水 直樹	国立成育医療センター手術集中治療部
	平出 敦	京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター

平成19年度厚生労働科学研究費補助金「循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業」  
「自動体外式除細動器 AED を用いた心疾患の救命率向上のための  
体制の構築に関する研究」(H18-心筋-01)  
(研究代表者 丸川征四郎)

分担研究  
AED 教育の効果的な普及法にかかわる研究  
研究分担者 丸川 征四郎

平成19年度 研究報告

## 研究課題 A

学童・学生・一般成人を対象とした自動体外式除細動器 (AED)  
啓発アニメーションの作製と教育効果の検討

研究担当者 長谷 敦子  
(長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部 准教授)

平成20(2008)年3月

## 目 次

1. 分担研究報告	3
研究要旨	3
A. 研究目的	3
B. 研究方法	3
C. 研究結果	4
D. 考 察	5
E. 結 論	5
F. 健康危険情報	5
G. 研究発表	6
H. 知的財産権の出願・登録状況	6
2. 資料リスト	
資料1、小学校教員へのアンケート調査	7
資料2、小学生へのパイロット調査	11
資料3、小学生への本調査	14
資料4、教育効果維持のための下敷き	26
資料5、小学校（新上五島町）での調査と講習	28

## 学童・学生・一般成人を対象とした自動体外式除細動器（AED） 啓発アニメーションの学童に対する教育効果の検討

長谷 敦子\*1、山下和範\*1、坂本 哲也\*2、畑中 哲生\*3、清水 直樹\*4、丸川 征四郎\*5

長崎大学医学部・歯学部附属病院救急部\*1、帝京大学医学部附属病院救命救急センター\*2、救急救命九州研修所\*3、国立成育医療センター手術集中治療部\*4、兵庫医科大学救急災害医学\*5

**研究要旨：** 本研究は、学童・学生を含む市民にとって、わかりやすく親しみやすいAED啓発アニメーションの開発、普及を目的とした。今年度は、初年度に製作したAED啓発アニメーションDVDを小学4、5、6年生の合計1189人に視聴させ、全体的な感想、内容の理解度、AED使用と心肺蘇生法の学習意欲、家庭などへの波及効果についてアンケート調査を行った。結果は、全体で94%の生徒が“ためになった”、80%が登場人物のように心肺蘇生とAEDの使用が行えるようになりたい、67%が“両親にも見せたい”と答えており、AED啓発アニメーションの教育効果は非常に良好であった。次年度は、このAED啓発アニメーションと簡易型蘇生人形を組み合わせた効果的な教育法の確立と普及体制を構築し、学童へのAED/心肺蘇生教育の新教材の提供と教育のあり方を提言する。また成人に対する短時間で効果的なAEDの普及啓発に活用していく。

### A. 研究目的

AEDの効果的な普及のために、市民に解りやすく親しみやすい啓発教材として初年度にAED啓発アニメーションDVD（以下、AED啓発アニメ）を作製した。内容は、小学校4年生の主人公が祖父の蘇生現場に立ち会うというストーリーで、視聴者が追体験をしながらAEDの重要性を認識するとともに、AED使用や応急処置のキーポイントを学べるようにした。

本年度は小学校中・高学年の学童に対し、①AED啓発アニメの内容に対する全体的な感想②内容の理解度③AEDの使用法と心肺蘇生法の学習意欲④家庭や友人などへの波及効果についてアンケート調査を行い、AED啓発アニメの教育効果について調べ、改良の必要性の有無や今後の展開について検討した。

### B. 研究方法

学童に対するアンケート調査の前に、小学校

教員28人に対しAED啓発アニメの視聴及びアンケートを行い、担任している学童に視聴させることを想定した場合に、精神的な影響や教育効果はどう予想されるかを調査した。その結果、学童に視聴させた場合でも心理面で問題はなく、ある程度の教育効果が期待できると判断し、スポーツ少年団ソフトボールチーム2年生から6年生までの39人に対してパイロット調査を行い、調査対象学年、調査方法について検討した。以上よりアンケート対象を4年生以上とし、アンケート内容を改訂し、本調査を行った。

本調査は、長崎県長崎市、同五島市、同新上五島町教育委員会に調査協力を求め、各小学校長宛に調査を依頼し、協力の承諾をいただいた17校にAED啓発アニメDVDとアンケート用紙を郵送して、各校それぞれで調査学年と人数を決め、AED啓発アニメの視聴とアンケートを行って返送する方法をとった。その他、ソフトボールチーム、横浜市でのイベント参加者に対するアンケート調査も行った。

離島の2校については、研究協力者の山下和範医師が出向き、同様なアンケート調査を行った後にシミュレータ人形を使ったAEDと心肺蘇生の講習を行った。

受講した学童が、アニメーションで学んだことを、繰り返し思い出し、長く記憶に留める方策として、アニメキャラクターを主人公にしたマンガ下敷きを作成した。

### C. 研究結果

(1) 小学校教員へのアンケート調査(資料1)：受け持ちクラスでこの教材を見せたら、大多数の子ども達はどのような視聴のしかたをしようかという問いには、86%が“興味を持って見ると思う”と答えた。また精神的ストレスに関して、93%が許容できるまたはもっとリアルな表現で良いと答えた。約90%がAEDの理解度、全体的満足度、学習意欲高揚の効果が高いだろうと考えており、学童に視聴させても精神的に問題はほとんどなく、学習効果が狙える予測がなされ、本調査を行うことにした。

(2) 小学生へのパイロット調査(資料2)：研究者が出向いて視聴する学童の様子を観察しながらアンケート調査を行った。対象は全ての学年の生徒が含まれた集団であることを条件に選択し、フットボールチームの39人とした。視聴に関しては熱心で、“いやだった”と答えたものはおらず、95%が“ためになった”と答えており、視聴そのものは問題なく効果もあると考えられた。しかし2年生と3年生はアンケートそのもののやり方が理解しにくいこと、再三の注意にもかかわらず友人と相談して答を書く傾向があることなどから、本アンケート調査の対象からはずすことにした。さらにパイロット調査の結果をもとに、アンケート調査内容を学童が答えやすいように改善し、本調査を行った。

(3) 小学生への本調査(資料3)：本研究で

は、有効回答数が総数1189人(4年生443人、5年生326人、6年生420人)であった。大きく分けて4つのカテゴリーでアンケートを行った。

①全体的な感想：“おもしろかった”“こわかった”と、どちらも全体で約20%が回答していたが、学年が長じるにつれて、“おもしろかった”と答える割合が増え、“こわかった”と答える割合が減った。“いやだった”“特になんにも感じなかった”と答えた割合は2%台と非常に少なく、逆に“ためになった”と答えた割合は各学年ともに94%を占め、AED啓発アニメが学童への教育材料として優れていると考えられた。

②内容の理解度：登場人物への共感度を問うことによつて、間接的に内容の理解度を測った。結果は、4年生ほどしろう君への共感度が高く、学年が長じるにつれてしろう君へもっとがんばって欲しいという思いが強くなっている。119番通報を行ったまこ姉さんは各学年とも約70%がよくがんばったと評価しており、自分も119番へ電話できると答えた割合が約50%いた。こういった状況で、子ども達にもできることがあることがわかり、自覚できた可能性が示唆された。さらに心肺蘇生とAEDの使用を行った店長に対する評価は非常に高く、また大人ならだれでも店長がやったことができると答えた割合が10%いることは興味深い。大人が心肺蘇生とAEDの使用によつて人命救助を行うことに、子ども達の期待が高いことを示していると考えられる。

③学習意欲への動機づけ：4年生は“しろう君やまこ姉さんがやったことができるようになりたい”と答える割合が他よりも高く、おそらく5、6年生はすでにできるという自信があるかもしれない。それに対して、各学年とも80%近くが“店長さんがやったことをできるようになりたい”と思っており、AED啓発アニメが心肺蘇生講習の学習意欲への動機づけとして十

分な効果が期待できるものと考えられる。

④学年が低いほど“もう一度見たい”“家族や友達に見せたい”と思う割合が高く、内容に対する関心が高いことを示している。いずれの学年も半数以上が家族へ見せたいと考えており、学童への啓発が一般成人への波及効果がある可能性が高いことが示された。

⑤その他の意見:フリーコメントとして意見を求めたところ、AED 啓発アニメの内容に対する具体的な感想や祖父が蘇生されたことに対する賞賛だけでなく、自分に出来ることを落ち着いて行動したい、心肺蘇生ができるようになりたい、AED のことをもっと知りたい、心肺蘇生の講習会に参加したいという学習意欲、学校や地域に AED を普及して欲しい、AED 啓発アニメを多くの人に見て欲しいといった AED 啓発と普及の必要性など、予想以上に学童が真剣に AED と心肺蘇生のことを考えるきっかけとなっていることがわかった。

(4) アニメ下敷きの制作(資料4): AED 啓発アニメの内容を思い出すことを目的とした下敷きは、AED 啓発アニメのダイジェスト版(低学年用)と、AED の使用方法を示したもの(高学年用)の2種類を制作した。

(5) 小学校(新上五島町)での調査と講習(資料5): 新上五島町は離島にあり、町内の2つの小学校で調査と心肺蘇生講習を行った。AED 啓発アニメ視聴の後に行った心肺蘇生のデモンストラーションと講習に、生徒達が目を輝かせて参加していた。

#### D. 考察

アンケート調査により、AED 啓発アニメの蘇生教材としての有効性を検討した結果、小学校4年生以上の学童が AED 啓発アニメ教材を見た事によって AED に対する知識や関心が高まり、非常に良好な結果が得られた。また家庭内や友人への普及効果も期待できた。従って AED

啓発アニメ内容の改訂は必要ないと判断した。

視聴した AED 啓発アニメの内容を長く記憶を留める方策として、アニメキャラクターを主人公にした下敷きを制作した。これを所持することで、①心肺蘇生法を知らない子供は(成人でも)心肺蘇生の手伝いができることを知ってもらう②AED に馴染んでもらう③家庭などでの話題提供に使用④AED 啓発アニメの内容を思い出すなどの効果が期待できる。短時間で多くの対象に AED を啓発できる教材として、DVD の視聴と共に配布することを考えている。

離島では子どもが本土に渡った時に困らないように、教育用に信号機が町内に設置しており、交通規則を遵守する習慣を幼いころから身につけるようにしている。同じような考え方で、現在住んでいるところで AED をほとんど見ることがない地域においても、将来のために蘇生の教育をすることは大変重要と考える。

次年度は、この AED 啓発アニメ DVD と簡易型蘇生人形での蘇生教育を実施して普及体制を構築し、学童への AED/心肺蘇生教育の新教材の提供と教育のあり方を提言する。また成人に対する短時間で効果的な AED の普及啓発に活用していく方法を考えていく。

#### E. 結論

AED 啓発教材として制作したアニメーションの学童に対する教育効果を検討し、良好な結果を得た。次年度は、学童への AED/心肺蘇生教育の新教材の提供と教育のあり方を提言できるように研究を進める。同時に幅広い対象に向けて広く活用できるように、使用対象と方法を考える。

#### F. 健康危険情報

なし



#### G. 研究発表

長谷敦子, 坂本哲也, 畑中哲生, 清水直樹, 丸川征四郎: 学生・学童・一般成人を対象とした AED 啓発アニメーションの作製 第 35 回日本救急医学会, 2007, 大阪

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

## 資料 1、小学校教員へのアンケート調査

長崎大学教育学部附属小学校 嘉松弘一郎 副校長先生にアンケート調査用紙作製のご協力をいただき、さらに同小学校担任教師 28 人へアニメーション DVD 視聴とアンケート調査を行った。

### ○プロフィールについて

#### 1. 教員歴

3年以下	10年以下	20年以下	20年以上
1	14	10	3

#### 2. 担当学年

1-2年	3-4年	5-6年	その他
7	6	10	5

#### 3. 心肺蘇生講習の受講歴

無	有					
	1回	2回	3回	4回	5回	それ以上
8	3	4	7	1	2	3

#### 4. 心肺蘇生の学習歴

無	有	
26	2	水泳指導

#### 5. AED認知度（複数回答可）

全く知らない	存在を知っている	効果を知っている	使用法を知っている
6	11	8	3

## ○アニメーション視聴後の質問

1. 先生の受け持ちクラスでこの教材を見せたら、大多数の子ども達はどのような視聴のしかたをされると思われますか。

興味を示さないと思う	1(理由:自分に手伝える内容とは感じない;5,6年生担任)
途中で飽きると思う	3(理由:時間が長い;1年生担任、 現実とはかけはなれている;3年生担任)
興味を持って見ると思う	24

2. 先生の受け持ちクラスで、この教材を見終えた大多数の子ども達はどのような印象を持つと思われますか。先生のお考えで結構ですのでお答えください。

### ① 蘇生の場面が情緒・記憶に与える影響について

#### ・ 精神的ストレス

刺激が強い	2 (4, 5, 6年生担任、5,6年生担任)
許容できる	24
もっとリアルな表現でもよい	2 (5年生担任2人)

#### ・ 記憶される強さ

ほとんど記憶に残らない	1 (6年生担任)
1-2日は残る	12
長く記憶に残る	15

### ② ストーリーについて

#### ・ 理解度

非常に難解と思う	1 (5年生担任)
部分的に難解と思う	8
わかり易いと思う	19

#### ・ 主人公への共感度

共感しないだろう	2 (5年生担任、5,6年生担任)
部分的に共感するだろう	8
十分共感するだろう	18

#### ・ 満足度

物足りないだろう	3 (3年生担任、5年生担任、5,6年生担任)
部分的に満足できるだろう	9
十分満足できるだろう	16

③ AED について

・ 重要性の理解度

理解できないだろう	1 (1 年生担任)
だいたい理解できるだろう	18
十分理解できるだろう	9

・ 役割の理解度

理解できないだろう	1 (1 年生担任)
だいたい理解できるだろう	14
十分理解できるだろう	13

・ 学習意欲の高揚:(効果は薄い、たぶん有効、とても有効)だろう

効果は薄いだろう	3 (1 年生担任、3 年生担任、5,6 年生担任)
たぶん有効だろう	17
とても有効だろう	7

④ このアニメーションを観た後で、家庭での子ども達の行動、家族の反応についての質問です。( )の中に数字を入れてください。

・ 家庭で話題にする率(分母はクラス人数)は、( )%くらいだろう  
⇒ 10~90%まで様々で、回答があった 25 人での平均は 53.6%であった。

・ 両親・家族が反応を示す(講習情報を探すなど)率(分母はクラス人数)は、( )%くらいだろう  
⇒ 0~80%まで様々で、回答があった 25 人での平均は 31.9%であった。

3. このアニメーションに問題点や不足点があるとしたら、それを補うにはどのように改善したらよいでしょうか。ご助言をお聞かせ下さい。

- 3つの目標<①子供達に AED の存在を知ってもらう、②子供達に AED や心肺蘇生の重要性を理解してもらう、③さらに子供達から伝聞した父兄に AED 学習への関心を深めてもらう>のうち、①は十分できると思う。②③は、もう少し説明が必要。
- 高学年には、AED その物と使い方の説明は実写でもよい。
- 途中に出てくるキャラクターが緊張感を減らしている。最後の場面は良い。
- 低・中学年には十分かつ適当。高学年は、使用者(大人)のサポートが可能なため、実写も交え具体的に解説すると良い。
- 『心臓にカツを入れる』という表現が適切か疑問。
- AED の使い方等は、子供にはやや難しい(機械を使うこと→生命への抵抗があ

- る)。AEDが必要な原因等を、はっきり描くべき。
- 実際の事例が少し入るとよい。
  - 場面ごとの切り替わりで画面が暗くなり、数秒ほど待つのが、不安な気持ちにさせる。
  - AEDへの関心は高まる。
  - 子供達から親への話は、もう少し内容に入れたほうがよい。
  - 近くに大人がいれば、大人が使うことを説明する。
  - なぜ人工呼吸ではダメなのかがわからない。救急車を呼ぶのが遅い。店員や家族の対応も遅い。
  - 実話を盛り込むとよい。
  - 実体験以外は、学校の事は案外家で話さない。強烈な印象を残す反面、恐怖心も抱かせる。アニメという非現実のメリット、デメリットがある。
  - パソコン処理のアニメでは心情表現が希薄。おじいちゃんが倒れたときの危機感が全く無い。AED自体の説明が欲しい。
  - おじいさんが倒れる場面、蘇生の場面は、音楽が無いほうがよい。(恐怖心を煽っているような印象)
  - 『もしも』の時、子供たちが取るべき行動を具体的に示したほうが良い。
  - AEDの使用法の部分は実写が良い。

## 資料 2、小学生でのパイロット調査

○ 協力機関：長崎市西城山西部スポーツ少年団（ソフトボールチーム）

2 年生：6 人、3 年生：7 人、4 年生：6 人、5 年生：11 人、6 年生：9 人

合計：39 人

設問 1：アニメーションを見て、あなたが感じたことにあてはまるもの全てに○をつけてください。

	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	合計
ためになった	5/6 84%	7/7 100%	6/6 100%	10/11 91%	9/9 100%	37/39 95%
おもしろかった	1/6 17%	3/7 43%	1/6 17%	1/11 9%	3/9 33%	9/39 23%
楽しかった	1/6 17%	0/7 0	2/6 33%	0/11 0	1/9 11%	4/39 10%
こわかった	1/6 17%	0/7 0	1/6 17%	0/11 0	1/9 11%	3/39 8%
おもしろくなかった	1/6 17%	0/7 0	0/6 0	0/11 0	0/9 0	1/39 3%
いやだった	0/6	0/7	0/6	0/11	0/9	0/39 0%
特になにもかんじなかった	0/6	0/7	0/6	0/11	0/9	0/39 0%

設問2：登場人物について、あなたが思ったことにあてはまるものに全て○をつけてください

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
しろう君はよくがんばった。	1/6 17%	2/7 29%	1/6 17%	4/11 36%	3/9 33%	11/39 28%
しろう君はもっとがんばってほしい	1/6 17%	2/7 29%	3/6 50%	4/11 36%	4/9 45%	14/39 36%
しろう君は、泣かなかっただけでもよかった。	4/6 67%	4/7 58%	2/6 33%	2/11 18%	4/9 45%	16/39 41%
こういうとき、自分も泣くかもしれない	1/6 17%	2/7 29%	3/6 50%	0 0%	0 0%	6/39 15%
まこ姉さんは、よくがんばった。	3/6 50%	4/7 58%	5/6 83%	7/11 64%	4/9 45%	23/39 59%
まこ姉さんは、もっとがんばってほしい。	1/6 17%	1/7 15%	0 0%	1/11 9%	3/9 33%	6/39 15%
こういうとき、119番に電話することは、自分にもできると思う。	2/6 33%	6/7 86%	6/6 100%	8/11 72%	5/9 56%	27/39 69%
こういうとき、自分もまこ姉さんのように、おちついて行動したい。	3/6 50%	5/7 71%	4/6 67%	7/11 64%	5/9 56%	24/39 62%
店長さんのやったことは、すごい。	3/6 50%	4/7 58%	4/6 67%	10/11 91%	8/9 89%	29/39 74%
店長さんがやったことは、大人ならだれでもできると思う。	2/6 33%	2/7 29%	2/6 33%	0 0%	0 0%	6/39 15%
こういうとき、自分も店長さんがやったことができるようになりたい。	6/6 100%	5/7 71%	6/6 100%	10/11 91%	6/9 67%	33/39 85%

設問3：これから、あなたがしたいことにあてはまるもの全てに○をつけてください。

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
もう一度みたい	1/6 17%	3/7 43%	3/6 50%	5/11 45%	2/9 22%	14/39 36%
父母に見せたい	2/6 33%	2/7 29%	1/6 17%	4/11 36%	5/9 56%	14/39 36%
兄弟に見せたい	4/6 67%	0/7 0	0/6 0	1/11 9%	1/9 11%	6/39 15%
友達に見せたい	3/6 50%	2/7 29	2/6 33%	4/11 36%	4/9 45%	15/39 38%

そのほか（※フリーコメント）

☆ 5年生

いまからでいいから、練習したい

☆6年生

かいぞうしてもっとおもしろくしたい

全国の人に見せたい

もし本当にこういうことがあったら、店長さんみたいにれいせいになりたい



### 資料3、小学生への本調査

#### 小学生(中・高学年)に対する AED 啓発アニメーション“AED ってなんだろう？” の教育効果に関わるアンケート調査

##### A、アンケート調査への協力機関および協力小学校

###### 1)アンケート調査協力機関

長崎市教育委員会、五島市教育委員会、新上五島町教育委員会  
ソフトボールチーム  
横浜市でのイベント参加者

###### 2)アンケート協力小学校

長崎市立稲佐小学校、長崎市立大園小学校、長崎市立手熊小学校  
長崎市立南陽小学校、長崎市立晴見台小学校、長崎市立北陽小学校  
長崎市立三重小学校、長崎市立村松小学校、長崎市立矢上小学校、  
五島市立奥浦小学校、五島市立崎山小学校、五島市立川原小学校、  
五島市立本山小学校  
新上五島町立有川小学校、新上五島町立仲知小学校、  
新上五島町立奈良尾小学校、新上五島町立若松小学校

##### B、アンケート調査対象数

対象総数は 1276 人(1 年生～6 年生)で、有効回答率は 93.2%である。  
学年別の有効回答数を下記に示す。

4 年生 有効回答数	443 人
5 年生 有効回答数	326 人
6 年生 有効回答数	420 人
合計有効回答数	1189 人

C、“AED ってなんだろう”アンケート調査用紙(学童用)

“AED ってなんだろう”アンケート ( )年生

①アニメーションをみて、あなたが感じたことにあてはまるもの全てに○をつけてください。

( )おもしろかった。( )楽しかった。

( )こわかった。( )いやだった。

( )ためになった。( )特になにも感じなかった。

②登場人物について、あなたが思ったことにあてはまるもの全てに○をつけてください。

( )しろう君は、よくがんばった。

( )しろう君は、もっとがんばってほしい。

( )しろう君は、泣かなかつたらもっとよかった。

( )こういうとき、自分も泣くかもしれない。

( )まこ姉さんは、よくがんばった。

( )まこ姉さんは、もっとがんばってほしい。

( )こういうとき、119 番に電話することは、自分にもできると思う。

( )店長さんのやったことは、すごい。

( )店長さんがやったことは、大人ならだれでもできると思う。

③これから、自分もできるようになりたいですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

( )しろう君がやったことを、できるようになりたい。

( )まこ姉さんがやったことを、できるようになりたい。

( )店長さんがやったことを、できるようになりたい。

( )自分には、むりだとおもう。

④このアニメについて、あてはまるもの全てに○をつけてください。

( )もう一度見たい。

( )お父さんやお母さんにも見せたい。

( )兄弟にも見せたい。

( )友達にも見せたい。

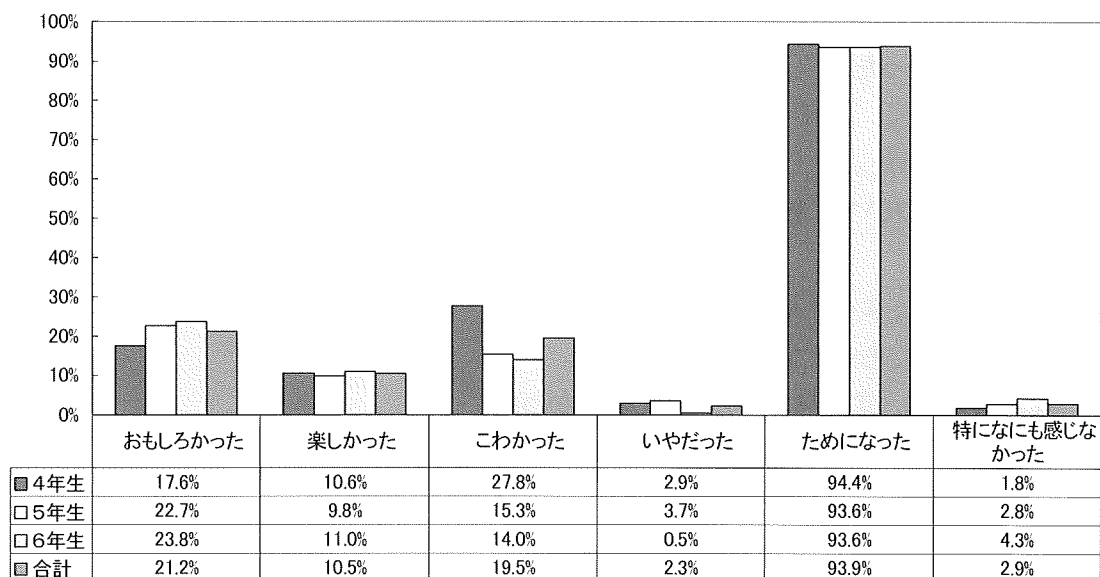
そのほかの意見(

)

最後まで答えてくれて、ありがとうございました。

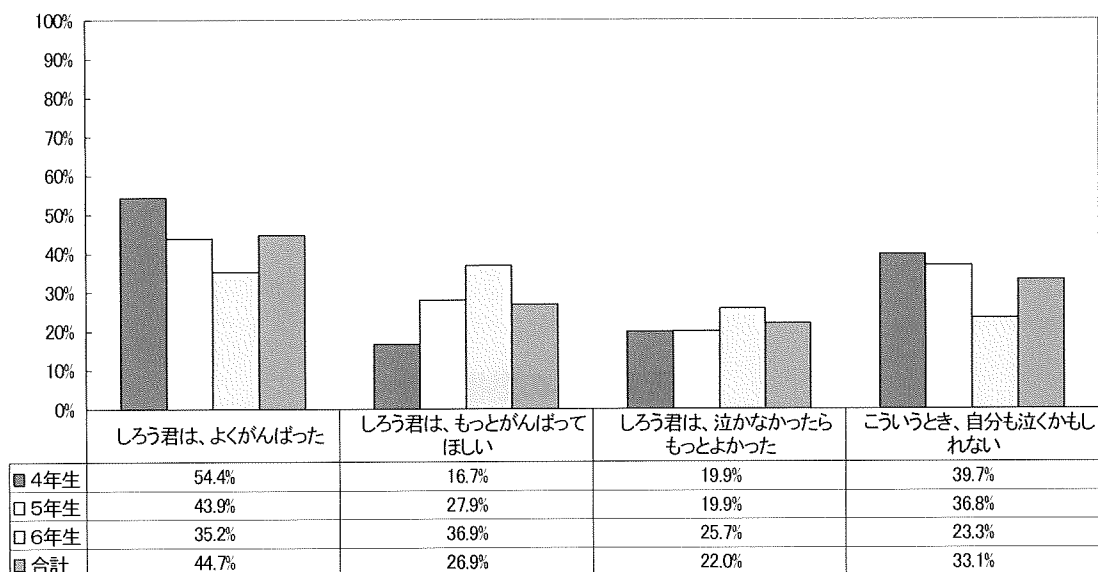
## D、アンケート調査結果

### 全体的な感想

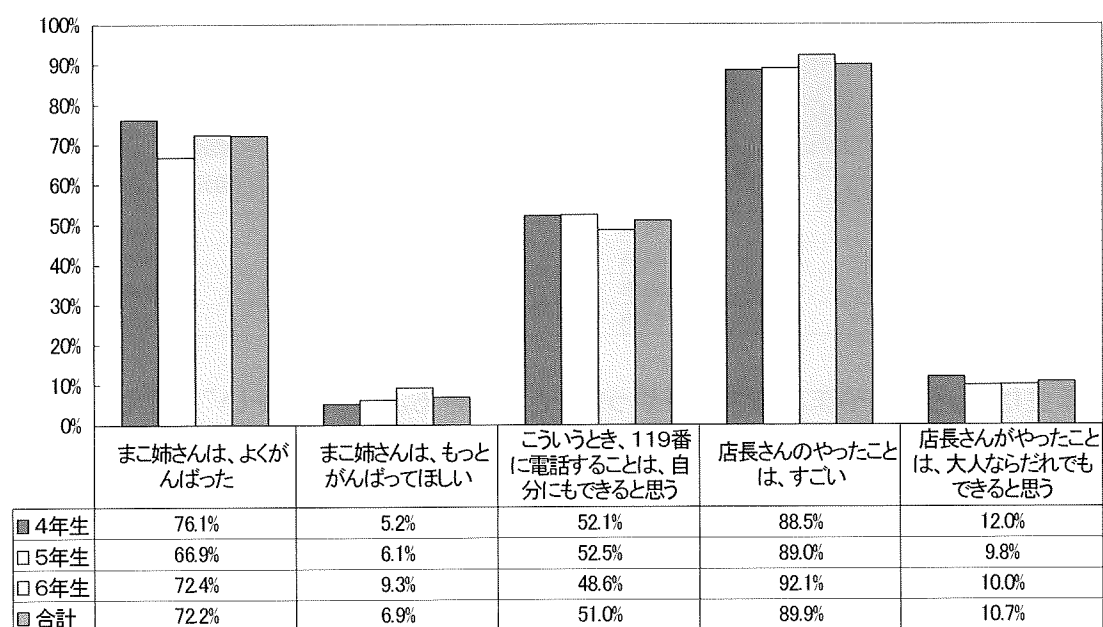


“おもしろかった”“こわかった”と、どちらも全体で約 20%が回答していたが、学年が長じるにつれて、“おもしろかった”と答える割合が増え、“こわかった”と答える割合が減った。“いやだった”“特になんにも感じなかった”と答えた割合は2%台と非常に少なく、逆に“ためになった”と答えた割合は各学年ともに 94%を占め、このアニメーションが学童への教育材料として優れていると考えられた。

### 登場人物への共感度(1)



### 登場人物への共感度(2)



登場人物への共感度を問うことによって、間接的に内容の理解度を測った。結果は、4年生ほどしろう君への共感度が高く、学年が長じるにつれてしろう君へもっとがんばって欲しいという思いが強くなっている。119番通報を行ったまこ姉さんは各学年とも約70%がよくがんばったと評価しており、自分も119番へ電話できると答えた割合が約50%いた。こういった状況で、子ども達にもできる事があることがわかり、自覚でき